HONDA
本田技研工業株式会社

3088401

Ⓗ D 50007809

ホンダ携帯発電機
E300・EM300
取扱説明書

このたびホンダ製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。

お買い上げいただきました製品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**下記の弊社サービス課**、および**サービスセンター**にお気軽にお申しつけください。

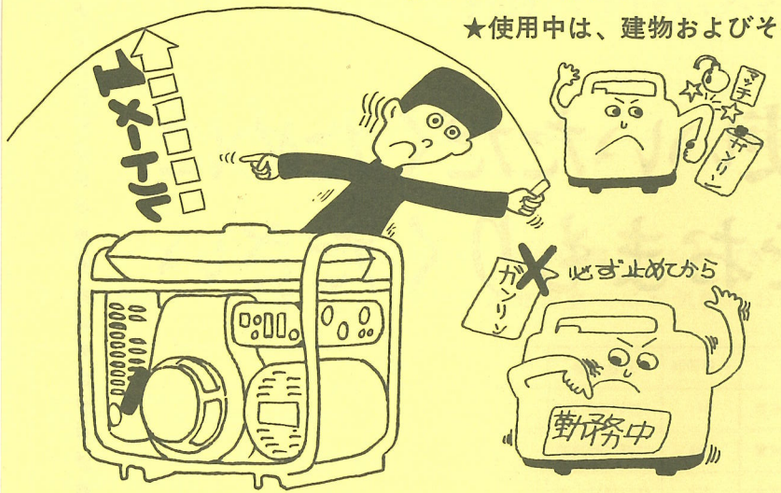
名　　称	電話番号	郵便番号	所　　在　　地
本田技研工業株式会社 東京支店サービス課〈関東、甲信越地方〉	03（987）3251	170	東京都豊島区東池袋４－６－５
本田技研工業株式会社 名古屋支店サービス課〈三重、東海、北陸地方〉	052(261)2671	460	愛知県名古屋市中区千代田１－７－２
本田技研工業株式会社 大阪支店サービス課〈近畿(三重除く)、中国(山口除く)、四国地方〉	06（313）1171	530	大阪府大阪市北区南扇町７－31
本田技研工業株式会社 九州支店サービス課〈九州全域と山口〉	092(291)5131	812	福岡県福岡市博多区祇園町８－７
本田技研工業株式会社 北海道支所サービス担当〈北海道全域〉	011(251)9231	060	北海道札幌市中央区北一条西７－１
本田技研工業株式会社 仙台支店サービス課〈東北６県〉	0222(25)6171	980	宮城県仙台市土樋１－11－２
沖縄サービスセンター〈沖縄県〉	0988(77)3097	901－21	沖縄県浦添市字仲間仙原1506　ホンダSF沖縄 （沖縄ホンダモーター内）

電話番号、住所などは変更になることがあります。

安全にお使いいただくために次のことをおまもりください

〈火災予防について〉

★使用中は、建物およびその他の設備から１メートル以上離す。



★発電機のまわりには、燃えやすいもの（わらくず、紙くず、木くずなど）**を近づけない。危険物**（油脂類、セルロイド、火薬など）**は置かない。**

★ガソリン補給時は、エンジンを必ず止める。

- ガソリンはこぼれないように入れる。
- ガソリンはタンク注入口の赤線（レベル）以上入れない。
- こぼれたガソリンは完全に拭き取り、かわかしてから始動する。

ガソリン補給時はタバコの火やたき火など、火気厳禁のこと。

★使用中は、発電機を傾斜させたり、移動をしない。
（ガソリンの洩れや振動による自然移動、また転倒の危険があります）

★周囲をかこったり、箱をかぶせたりしない。
（発電機が過熱することがあります）

★屋内では使用しない。
（屋内で使用する場合は、法律規制がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法、などにしたがってください）

〈排気ガスについて〉

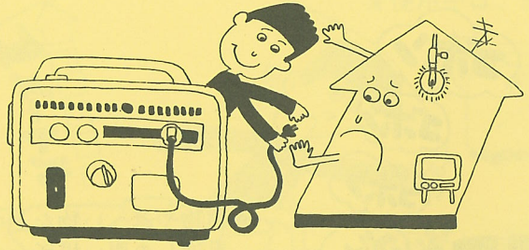
排気ガス中には、有害な成分が含まれています。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や家畜などにも十分ご注意ください。

★室内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内などや換気の悪い場所では使用しない。
（換気の悪い場所は、酸素不足と有害な一酸化炭素がたまってガス中毒の危険があります）

★建物や遮へい物などで風通しの悪い場所、また排気ガスがこもる場所では使用しない。

★排気口は、風通しのよい広い場所にむける。

〈その他の注意事項〉



★雨の中では使用しない。

- 発電機、電気器具が故障することがあります。
- ぬれた手でコンセントなどを操作すると感電することがあり、危険です。

★電力会社からの電気配線には絶対に接続しない。
（使用器具や発電機を故障させたり，火災あるいは人身事故の原因となります）

★使用場所が小石，土，砂利等で凸凹していたり，軟かい所では使用しない。(発電機の破損，故障の原因となります。)
やむ得ず使用する時には発電機の下に板等を敷いてください。

★カバー類を外したまま使用しない。
（手足をはさんだり思わぬ災害をまねきます）

★水洗いなどで，発電機に直接水をかけない。
（発電機が故障することがあります）

★使用中に音，におい，振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し，サービス店へ連絡する。

★仕業前には必ずエンジンオイルの点検補充を。

発電機の点検，整備を十分に行ない，つねに完全な状態で使用してください。詳しくは，「ホンダ携帯発電機整備手帳」「取扱説明書」をご覧ください。また、点検，整備や使用中などで異常と思われたら，「ホンダ発電機サービス店」または「ホンダＳＦ」(発電機サービス工場）へお申しつけください。

ホンダ携帯発電機Ｅ300・ＥＭ300は，騒音・振動の非常に少ない、小型軽量、取扱い容易な高性能発電機です。

発電機をより楽しく，快適にお使いいただくために正しい取扱いをしなければなりません。
ご使用前にかならず取扱説明書をお読みください。
また、電機器具の取扱説明書も併せてお読みください。
なお，本書はＥＭ300を基本にＥ300についても説明してあります。
この取扱説明書は，仕様変更などにより写真，内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。

＊本書に使用している写真はＥＭ300です。

目　次

1．各部の名称

2．E300・EM300の使用できる範囲

3．各部の取扱い

1．エンジンスイッチ
2．スロットルノブ
3．チョークレバー
4．スターター
5．周波計
6．AC-DC切換スイッチ
7．周波数切換スイッチ
8．ACコンセント
9．DCコンセント
10．ヒューズ
11．パイロットランプ

4．エンジンをかける前の点検

1．エンジンオイルの点検・補給
2．ガソリンの点検・補給
3．接続電気器具のスイッチの点検
4．発電機周囲の点検

5．エンジンのかけかた,とめかた

1．かけかた
2．とめかた

6．電気の取り出しかた

1．電圧調整のしかた
2．コンセントの使いかた

7．定期手入れ

8．やさしい点検・整備

1．携帯工具
2．エンジンオイルの交換
3．エアークリーナーの清掃
4．スパークプラグの清掃・調整
5．ヒューズの交換

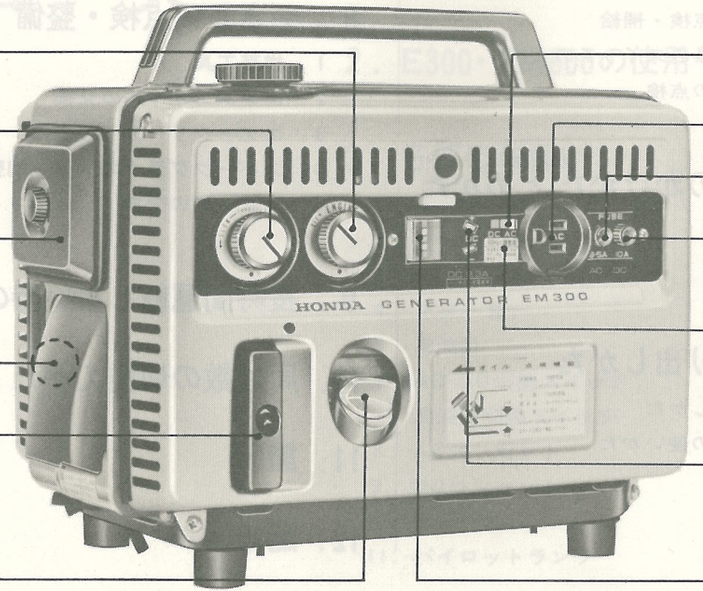
9．長時間運転しない時の手入れ

10．周波数の切換えかた

11．諸元

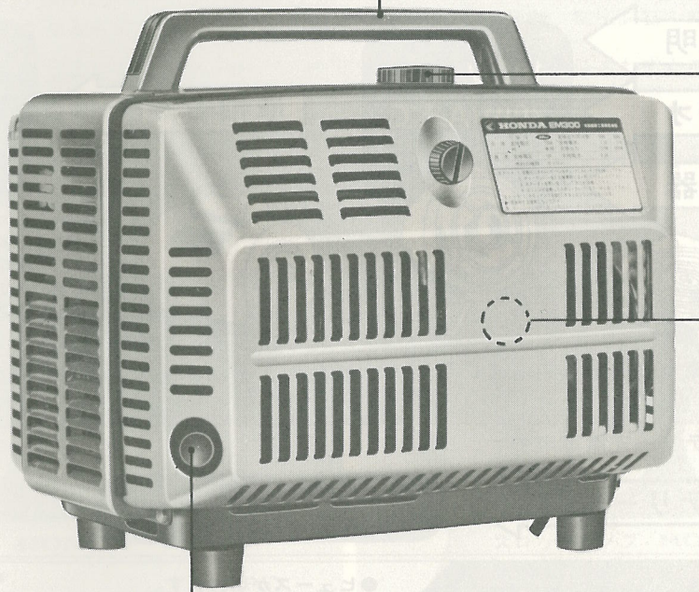
12．配線図

1．各部の名称



エンジンスイッチ
スロットルノブ
エアークリーナー
チョークレバー
スターター
オイルキャップ
AC-DC切換スイッチ
ACコンセント
ACヒューズ
DCヒューズ
周波数切換スイッチ
DCコンセント
周波計

＊写真：ＥＭ300



キャリーハンドル
タンクキャップ
スパークプラグ
排気口

＊写真：ＥＭ300

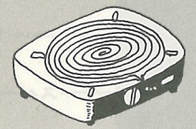
2. E300・EM300の使用できる範囲

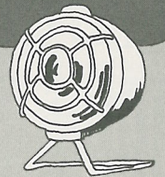
●使用できる範囲

交流

照　明
ラジオ
電熱器

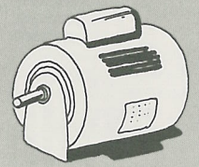
100V－300VAまで





単相モーター

100V－100Wまで



★モーターの使用にあたっては、起動電流の多いモーター，またモーターの種類によって使用できない場合があります。詳しくはお買い上げ販売店にご相談ください。

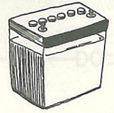
★２つ以上の電気器具を使用していて一方の器具のスイッチを切る場合は一度エンジン回転を下げて下さい。

直流

★直流はバッテリー充電専用です。

バッテリー充電

12V-8.3Aまで



●使用できる範囲を越えた場合
使用器具に異常があった場合

●ヒューズが切れます。
（使用器具のワット数，および使用器具に異常がないか点検してください。）
●ヒューズをそのまま交換してもすぐ切れます。

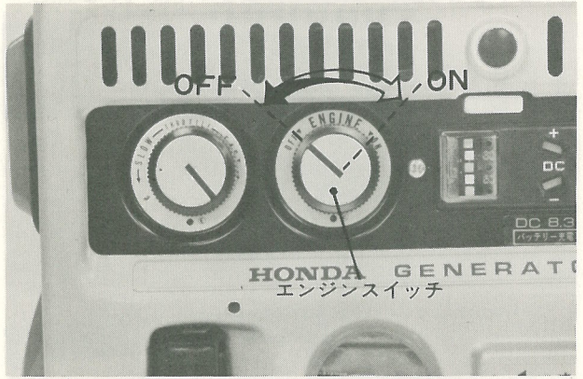
3. 各部の取扱い

1．エンジンスイッチ

エンジンスイッチは，フューエルコックと連動で，エンジンを始動，停止させるものです。

ＯＦＦ の位置は，フューエルコックが閉じ，エンジン停止の位置です。

Ｏ　Ｎ の位置は，フューエルコックが開き，エンジン始動，エンジンのかかっている時の位置です。



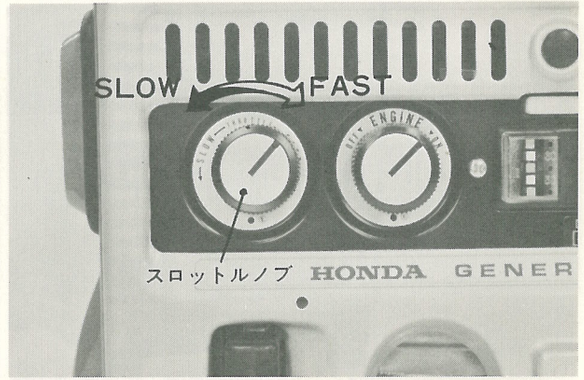
エンジンスイッチ

2．スロットルノブ

スロットルノブは、エンジン回転を調整する装置でエンジンの始動，電圧調整の時に操作します。

SLOW の方向にまわすとエンジン回転は下ります。

FAST の方向にまわすとエンジン回転は上ります。



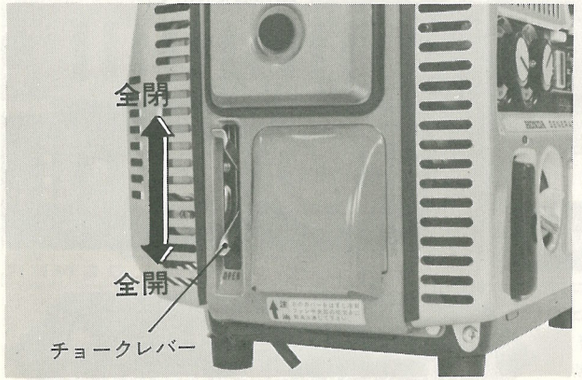
スロットルノブ

3．チョークレバー

チョークレバーは，エンジンに濃い混合ガスを供給するものです。
エンジンが冷えている時，エンジンがかかりにくい時にチョークレバーを操作します。

上げる チョークバルブが全閉となり，エンジンは濃い混合ガスを吸い込みます。
エンジン始動後，エンジン回転が安定するのを確認してから徐々に下げます。

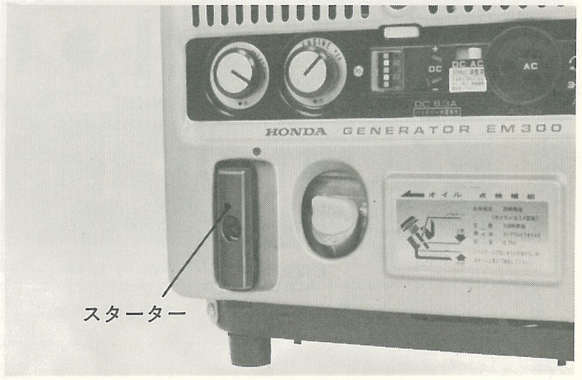
下げる 運転中は，必らず下げておきます。



4．スターター

スターターは，エンジンを始動する装置です。
エンジンを始動する時には，勢いよく引きます。

〈注意〉
エンジン始動後，スターターを引っぱったまま手を放さないで静かに戻してください。



5．周波計

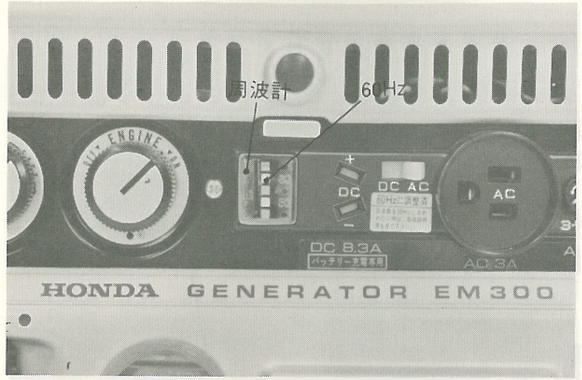
周波計は，発電機の発電した電気の周波数を表示するメーターです。

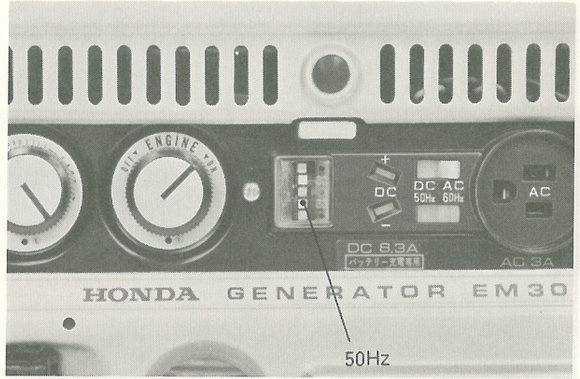
60Hz用は，メーターの60を指示する振動片が振動するようにスロットルノブをまわしエンジン回転を上げます。発生する電気は60Hz－100Vになります。

50Hz 用は，メーターの50を指示する振動片が振動するようにスロットルノブをまわしエンジン回転を上げます。発生する電気は50Hz－100Vになります。

〈注意〉

- 工場出荷時には60Hzにセットされています。
  50Hzに切換えるには，周波数切換スイッチの操作，スロットルストッパービスの調整が必要です。
  周波数切換え要領は28頁参照





6．AC-DC切換スイッチ

ＡＣ－ＤＣ切換スイッチは，交流，直流を切換えるスイッチです。交流を取出す時にはＡＣ，直流を取出す時にはＤＣにスイッチノブを合わせます。

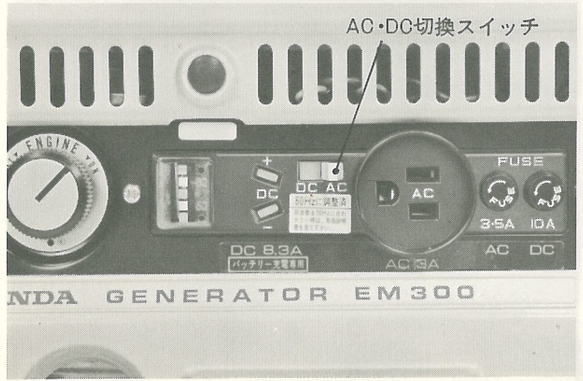
スイッチノブの位置	交　流	直　流
Ａ　Ｃ	取出し可能	コンセントが封印され取出しできません
Ｄ　Ｃ	コンセントが封印され取出しできません	取出し可能

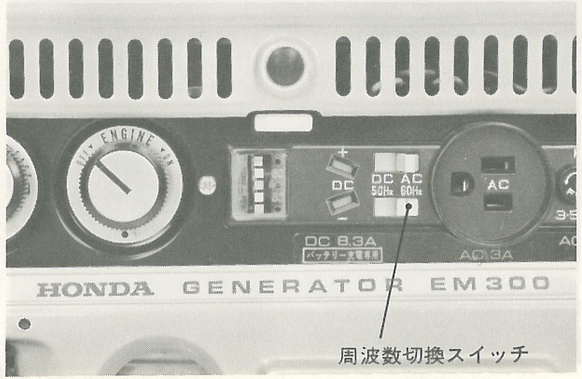
7．周波数切換スイッチ

周波数切換スイッチは，60Hz・50Hzの周波数を切換えるスイッチです。

周波数切換え要領は28頁参照

〈注意〉・工場出荷時には60Hzにセットされています。

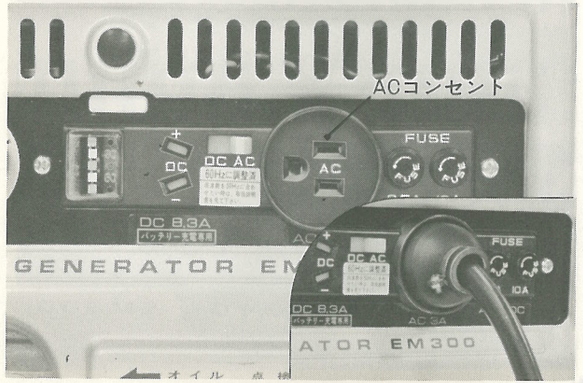




8．ＡＣコンセント

ＡＣコンセントは，交流電気を取出すところです。

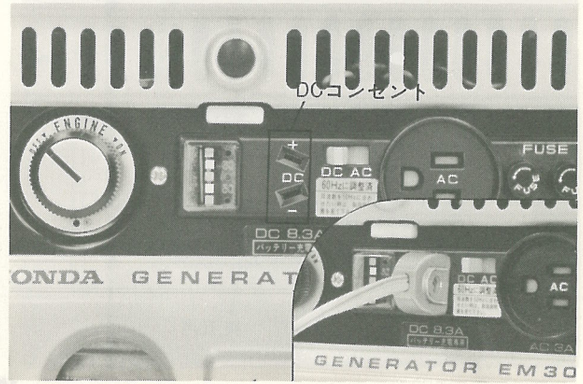
〈注意〉
- コンセントプラグは，接触不良，抜けのないよう完全に差し込んでください。
- ＡＣコンセントを使用する時には，ＡＣ－ＤＣ切換スイッチをＡＣに合わせてください。
- コンセントプラグは，接地型３本足コンセントプラグを使用してください。



9．ＤＣコンセント

ＤＣコンセントは，直流電気を取出すところです。

〈注意〉
- ＤＣコンセントは，ハ形コンセントになっています。直流を取出す時には付属のチャージコードを使用してください。
- ＋，－の極性を間違えないように接続してください。
- コンセントプラグは，接触不良，抜けのないよう完全に差し込んでください。
- ＤＣコンセントを使用する時には，ＡＣ－ＤＣ切換スイッチをＤＣに合わせてください。

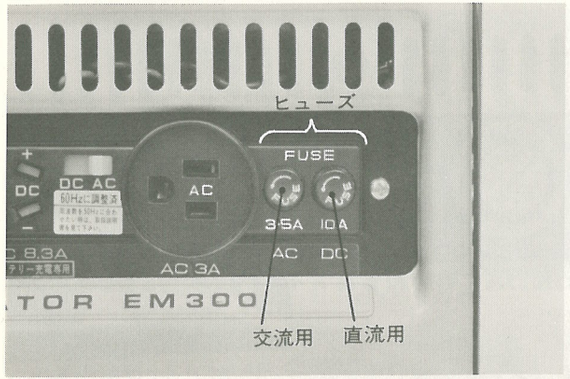


10. ヒューズ

ヒューズは，交流回路，直流回路を保護します。
ヒューズが切れていると電気を取出すことができません。

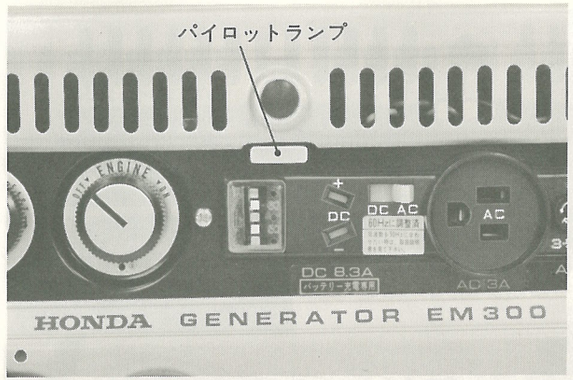
指定ヒューズ	交流用（AC）3.5A 直流用（DC）10A

ヒューズの交換要領，注意事項は26頁参照



11. パイロットランプ

パイロットランプは，発電機が発電していることを表示するランプです。
また夜間は，スロットル，エンジンスイッチ等の操作面の照明も行ないます。



4. エンジンをかける前の点検（1日1回の仕業点検）

★点検は，平担な場所で発電機を水平にしエンジンをとめて行なってください。

1．エンジンオイルの点検・補給

【点検】

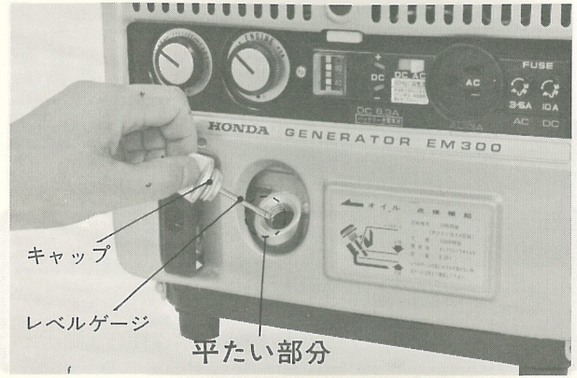
キャップを外し，レベルゲージをきれいな布で拭いてからいっぱい差し込み点検します。
静かに抜き出しゲージの平たい部分にオイルがつくのが適量
平たい部分にオイルがつかなくなったら平たい部分の上の線まで補給します。

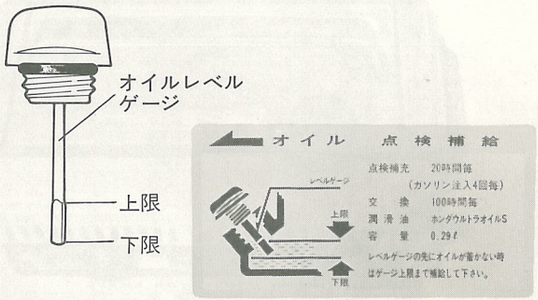
- オイルの汚れや変色がいちじるしかったら交換してください。（交換時期，方法は23頁参照）

【補給】

指定オイル　ホンダウルトラオイル

- キャップを外し，レベルゲージで確かめながら平たい部分まで入れます。
  入れ過ぎないように注意してください。
- オイルの点検・補給は本機に貼られている注意ステッカーにしたがってください。



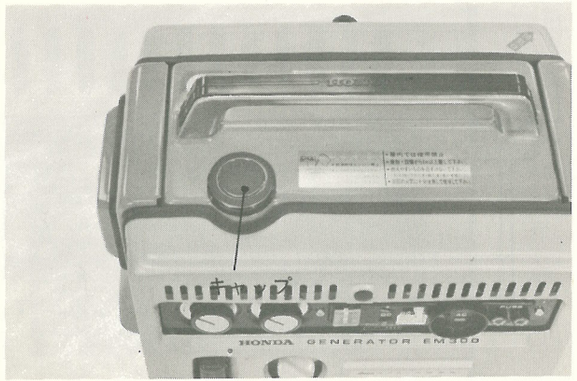


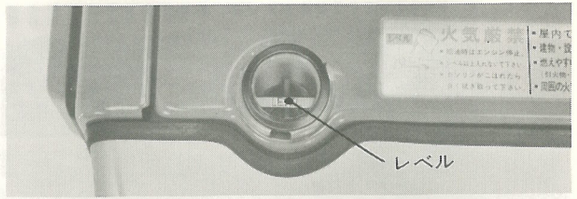
2．ガソリンの点検・補給

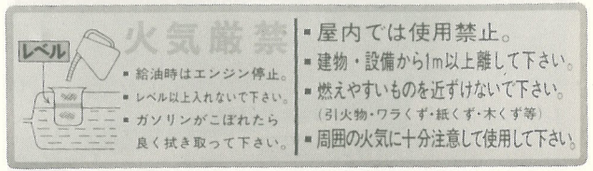
【点検】
キャップを外し，注入口の“LEVEL”まであるか点検します。
ガソリンが“LEVEL”までなかったら“LEVEL”まで補給します。

【補給】使用ガソリン：レギュラーガソリン（無鉛）
- キャップを外し，注入口の“LEVEL”まで補給します。
- キャップは完全にはめ込み，いっぱいまわしてください。（満タンで約4時間連続に運転可能）

〈注意〉
- ガソリンは，注入口口元まで入れないでください。
- ガソリンの補給は，本機に貼られている注意ステッカーにしたがってください。

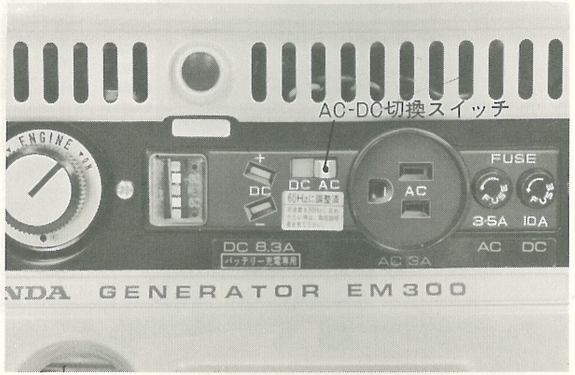






3．接続電気器具のスイッチの点検

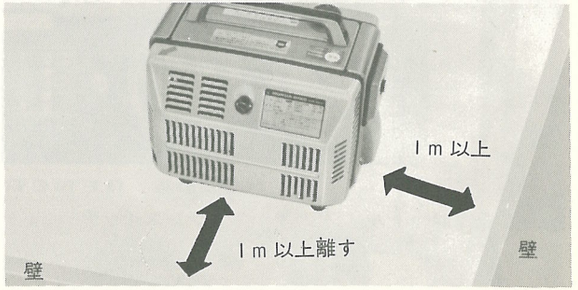
- 接続してある電気器具のスイッチが入っていると始動困難な場合があります。必らずスイッチを切ってください。
  電気器具にスイッチがない場合には，コンセントプラグを抜いてください。
- ＡＣ－ＤＣ切換スイッチをＡＣ（交流取出しの場合）またはＤＣ（直流取出しの場合）に確実に合わせます。



4．発電機周囲の点検

発電機の周囲は安全かどうか，次のことを点検してください。
- 燃えやすいものはないか，また危険物は置いてないか
- 建造物，　および他の設置物から1m以上離れているか
- 風通しはよいか，また換気は十分か
- 排気口は風通しのよい，広い場所に向けてあるか
- 周囲に火の気はないか
- 発電機をかこってないか

★使用場所が小石，土，砂利等で凸凹していたり，軟かい所では使用しない。（発電機の破損，故障の原因となります。）
やむ得ず使用する時には発電機の下に板等を敷いてください。

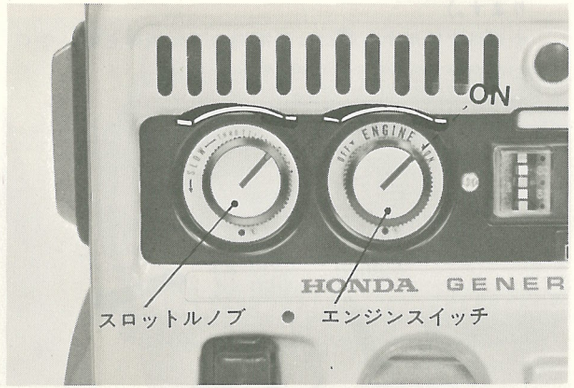


5.エンジンのかけかた・とめかた

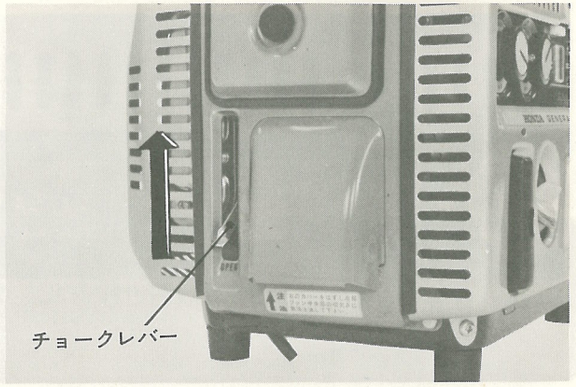
1．かけかた

1 エンジンスイッチのノブをまわし“ON”にする。

2 スロットルノブを左（SLOW側）にいっぱい戻した状態より右（FAST側）に2回まわす。

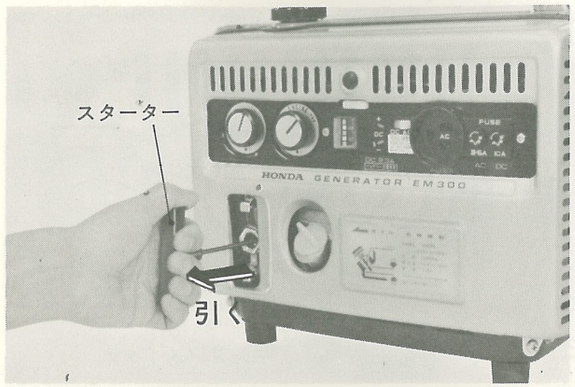


3 チョークレバーを2／3引き上げる。
厳寒時には一杯引き上げる。



4 スターターを勢いよく引く

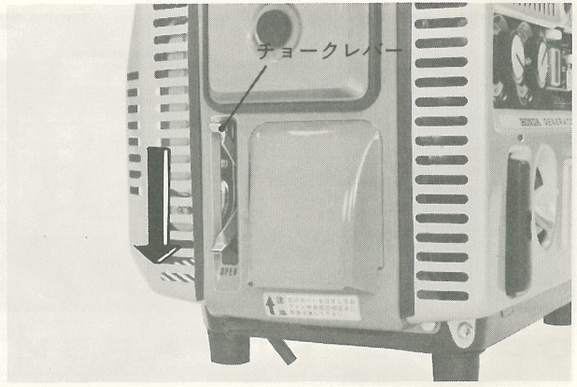
〈注意〉・スターターを引っぱったまま手を放さないでください。
スターターを破損することがあります。



5 エンジンがかかるとパイロットランプが点灯し，周波計の振動片が振動する。

6 エンジンの回転が安定するのを確認してから徐々にチョークレバーを下げる。

7 5～6分間暖機運転を行なう。
暖機運転をするとエンジン回転が安定し，電圧変動がありません。

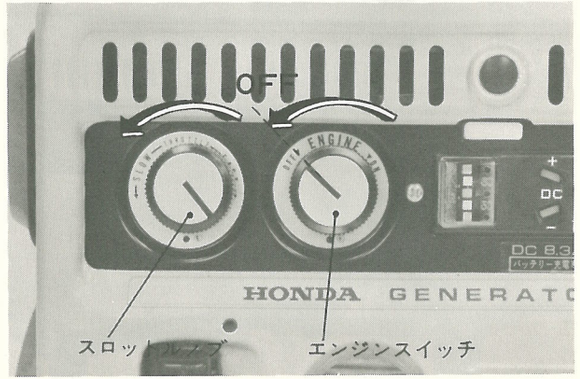


2．とめかた

1 接続電気器具のスイッチを切る。
（負荷を切る）

2 スロットルノブを“ＳＬＯＷ”側にまわしエンジン回転をさげる。

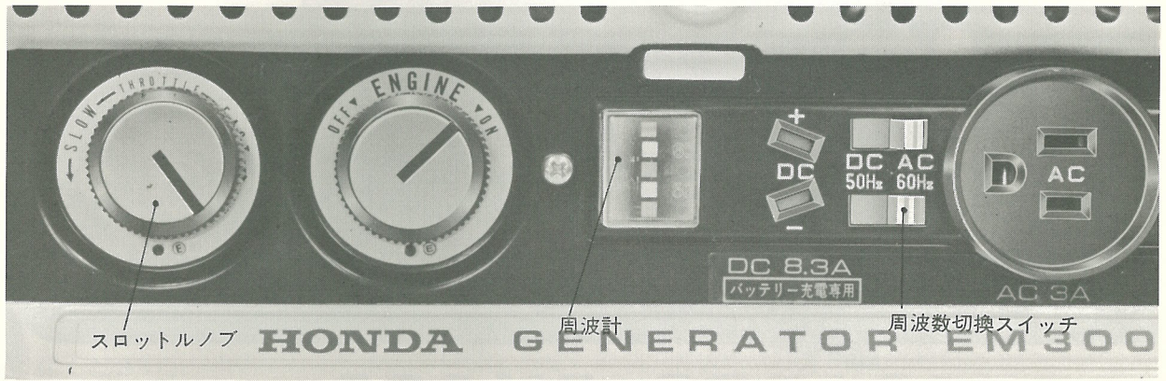
3 エンジンスイッチノブを“ＯＦＦ”にする。



6.電気の取り出しかた

●電力会社からの電気配線には絶対に持続しない。

60 Hz用	1.始動後、周波計を見ながらスロットルノブをFAST側にまわし60Hzに合わせる。	2.電気器具を接続する。 3.接続による周波数変動があるので再度スロットルノブをまわして調整する。 ※直流は，周波計を60Hzに合わせれば12Vの出力が得られます。	〈注意〉 ●周波数切換スイッチを50Hzに合わせた時は、周波計を50Hzに、60Hzに合わせた時には周波計を60Hzに合わせる。 ● 100W以下の電気器具を接続する場合は60Hz用は55Hz、50Hz用は45Hz程度に周波数を下げてご使用下さい。
50 Hz用	1.始動後、周波計を見ながらスロットルノブをFAST側にまわし50Hzに合わせる。		



2．コンセントの使いかた

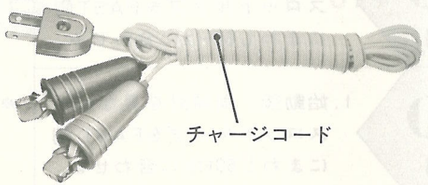
交流(AC)

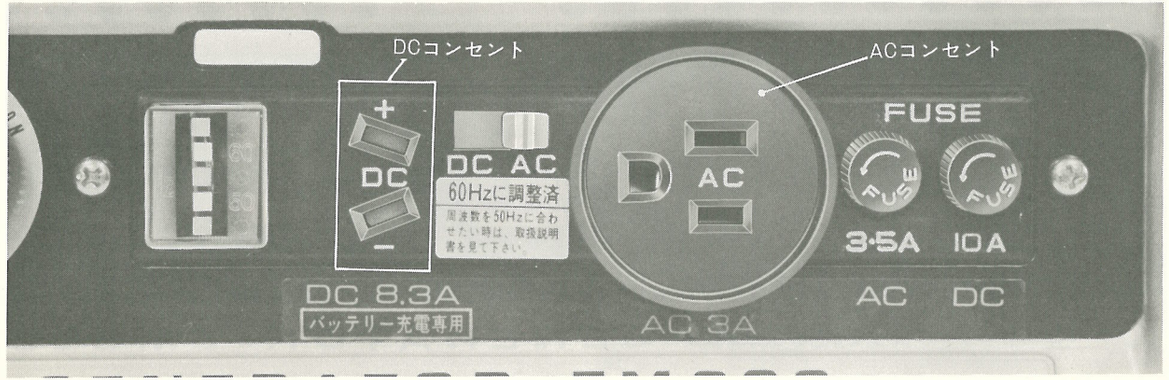
標準コンセントより
60Hz用　100V－300VA
50Hz用　100V－250VA
の電気が取り出せます。

直流(DC)

ハ形コンセントより
60Hz時12V－8.3A
の直流が取り出せます。

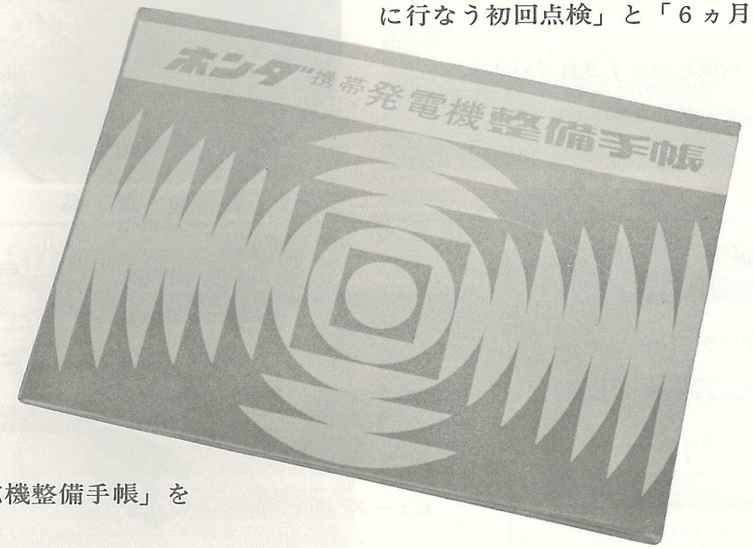
〈注意〉 直流は、バッテリー充電専用です。
付属のチャージコードを使用して充電してください。





7.定期手入れ

お買いあげいただきましたホンダ携帯発電機E300消音型EM300をいつも調子よく，長持ちさせるために「１日１回の仕業点検」と「お買いあげ後３ヵ月以内（または１００時間以内）に行なう初回点検」と「６ヵ月毎の定期点検」があります。



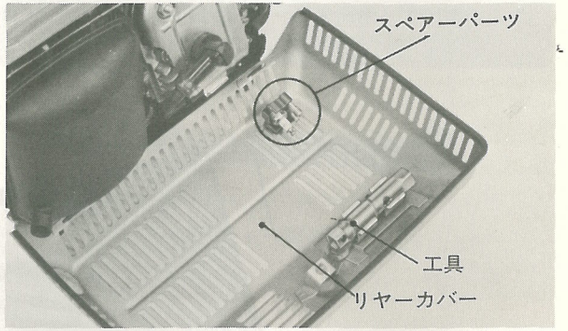
詳細は別冊
「ホンダ携帯発電機整備手帳」を
ご覧ください。

8.やさしい点検・整備

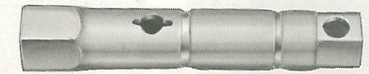
1．携帯工具

工具は，点検・整備にかかすことのできないものです。
常に本機にセットしておいてください。

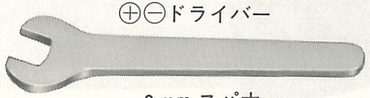
格納場所
・リヤーカバーの内側にセットされています。



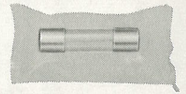
工　　具


スパークプラグレンチ

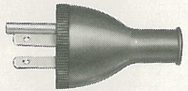
⊕⊖ドライバー

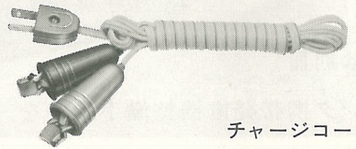

9 mm スパナ

同　梱　部　品


ヒューズ

スパークプラグ


コンセントプラグ


チャージコード

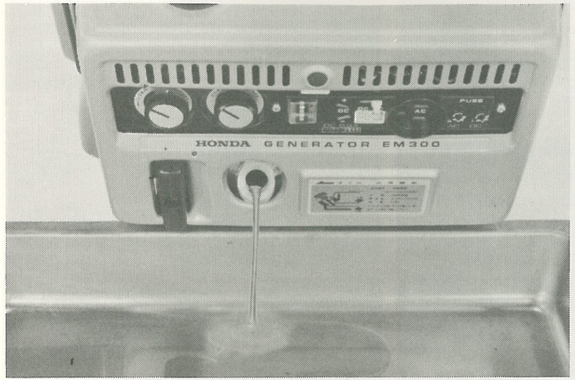
2．エンジンオイルの交換

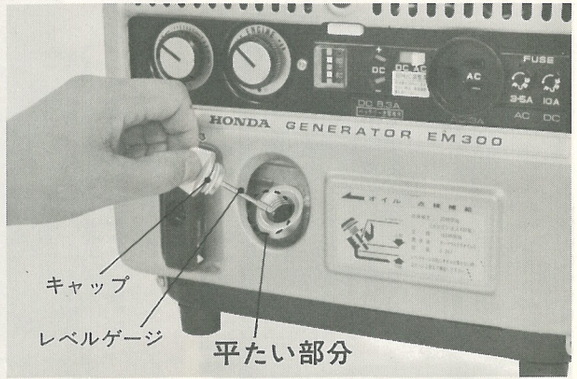
エンジンオイルが少なかったり，汚れたりすると摺動部や回転部の寿命をいちぢるしく縮めます。オイル容量，指定オイル，交換時期を守りましょう。

オイル容量	0.29 ℓ
指定オイル	ホンダウルトラオイル
点検補給	始動前
交換時間	初回：20時間目 2回目以降：100時間ごと

【抜き方】
・エンジンが暖かい間にキャップを外し本機を傾けて抜きます。
【入れ方】
・レベルゲージの平たい部分まで新しいオイルを入れます。

〈注意〉・エンジン停止直後は、ヤケドの危険がありますから注意してください。
・オイルを入れ過ぎないようにしてください。
・オイルの点検，補給については本機に貼られている注意ステッカーにしたがってください。





3．エアークリーナーの清掃

エアークリーナーエレメントはポリウレタンホームです。目づまりをすると馬力不足や燃料消費が多くなる原因となります。

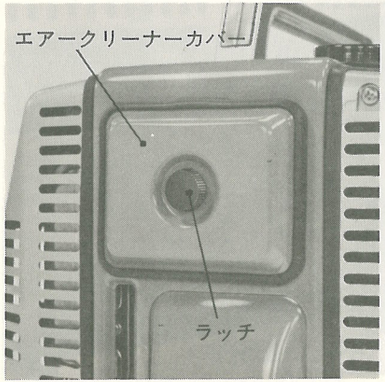
・ラッチをゆるめ，エアークリーナーカバーを取外します。

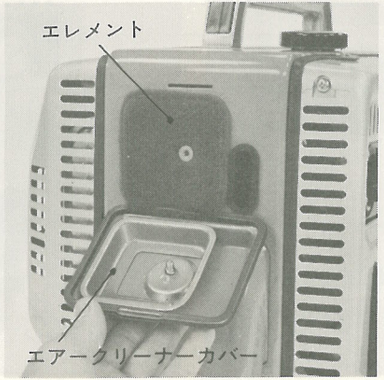
・エレメントを取外します。

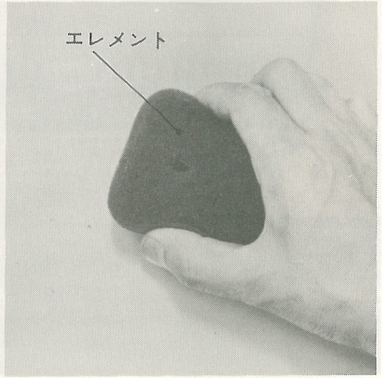
清掃：50時間ごと
ホコリの多い場所で使用した場合は1日1回または10時間ごとに清掃してください。

・エレメントを洗油で洗浄し，エンジンオイルを浸し固くしぼります。

〈注意〉・エレメントを洗浄する時は火気厳禁
・エアークリーナーカバーは完全に取付ける。
・エアークリーナーカバー，エレメントを外したまま運転しないでください。







4．スパークプラグの清掃，調整

電極が汚れたり，プラグの電極すきまが大きくなったりすると完全な火花がとばなくなります。
定期的に清掃，調整を行なってください。

①ラッチをゆるめ，リヤーカバーを取外します。

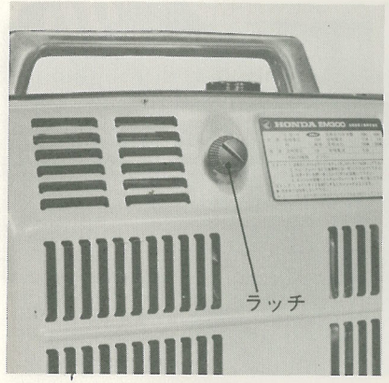
②プラグレンチでスパークプラグを取外します。

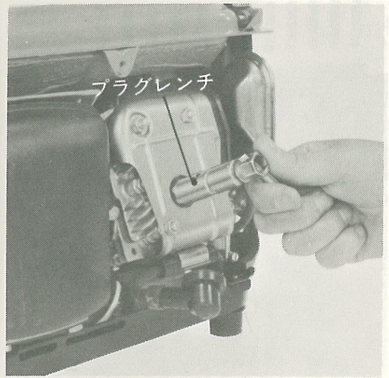
指定プラグ：CM-6(NGK)

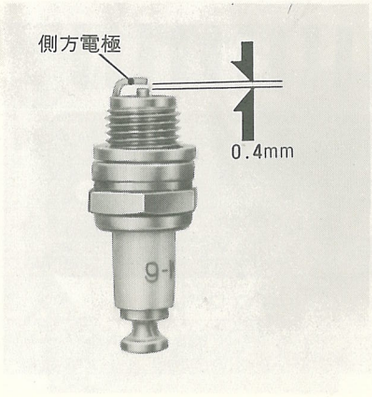
③プラグの汚れを針金，またはワイヤーブラシで落します。

④側方電極をつめ，電極すきまを0.4 mmに調整します。

〈注意〉・指定以外のプラグを使用しないでください。指定以外のプラグを使用するとくすぶり、焼け過ぎを起します。これは始動不良，回転不調，馬力不足などの原因となります。







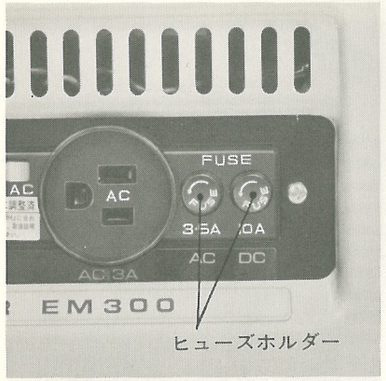
5．ヒューズの交換

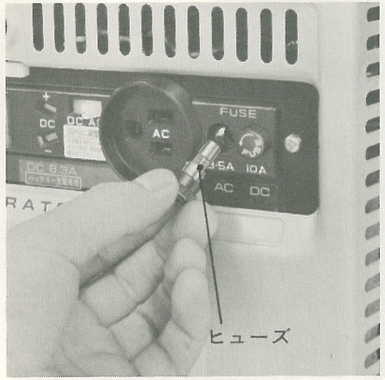
ヒューズが切れると電気が取り出せなくなります。

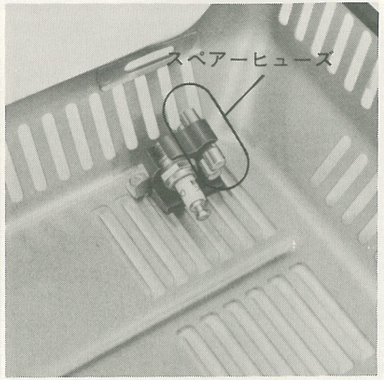
・エンジンをとめてからヒューズホルダーを外し，ヒューズを交換します。

指定ヒューズ：交流用（AC） 3.5A
直流用（DC） 10A

〈注意〉・ヒューズが切れたら，ヒューズを交換する前に切れた原因を調べてください。
・指定ヒューズ以外のもの，たとえば針金，銀紙などを使用すると発電機を焼損させる原因となります。





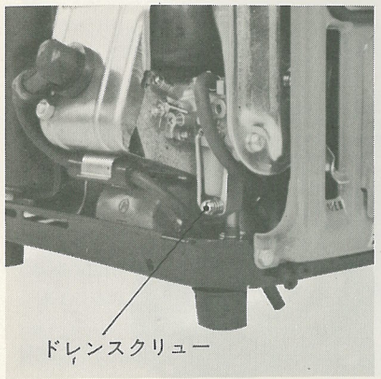


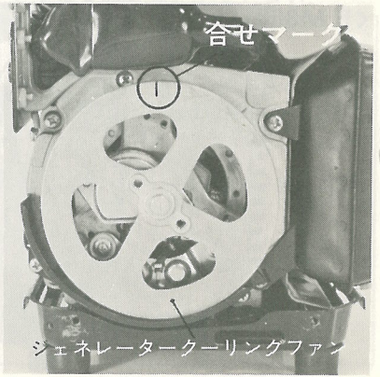
9.長時間運転しない時の手入れ

長時間運転しない場合，また長期格納する場合は次の手入れを行なってください。

1.発電機各部の清掃をする。
2.エンジンオイルを交換する。
3.エアークリーナーを清掃する。
4.キャブレター内のガソリンを抜く。
抜き方：ドレンスクリューをゆるめる（火気厳禁）
5.エンジンスイッチノブを“ＯＦＦ”にする。
6.バルブとポイントが閉じた状態でとめておく。

〈合せ方〉
発電機右側面のルーバー内のジェネレーターク－リングファンを見ながらスターターが重くなるところまで引き、更にファンの合せマークが真上の位置にくるまで引きます。



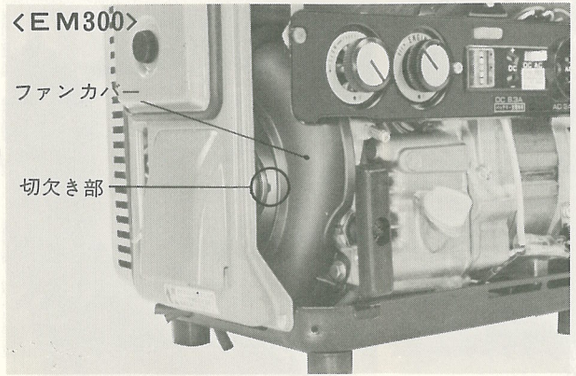


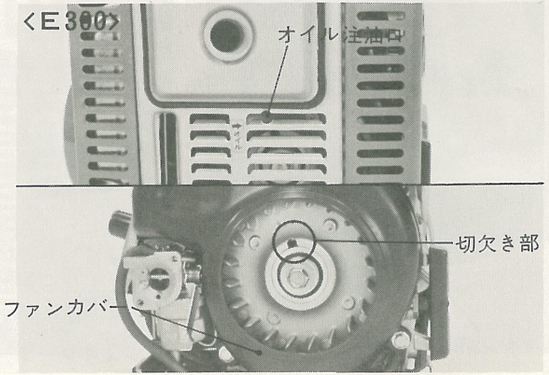
7.湿気，ホコリのない所を選び格納する。
8.スターターにオイルを給油する。(６ヵ月に１回)

注油のしかた

ＥＭ 300：フロントカバーを外し、オイラー（油さし）にて、冷却ファンの切欠き部に数滴注油します。

Ｅ 300：サイドカバーに設けられた注油口に、オイラーを差し込み、冷却ファンの切欠き部に数滴注油します。



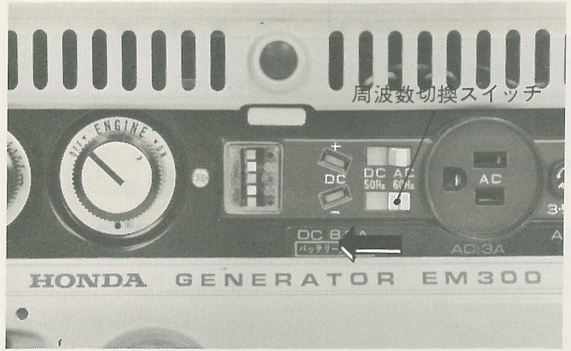


10.周波数の切換えかた

ホンダ携帯発電機Ｅ300・消音型ＥＭ300は60Ｈｚにセットされています。

50Hz地区（静岡県富士川以東）でステレオ・テープレコーダーなどを使用するときは周波数の切換えをします。

〈注意〉・ステレオ，テープレコーダーなど周波数合せを必要とするもの以外の電気器具（照明器具，電熱器など）を接続する時は60Hzにセットして使用しても何んら支障はありません。60Hzにセットのまま使用した方が出力が大きく蛍光灯，ランプのチラツキの心配がありません。

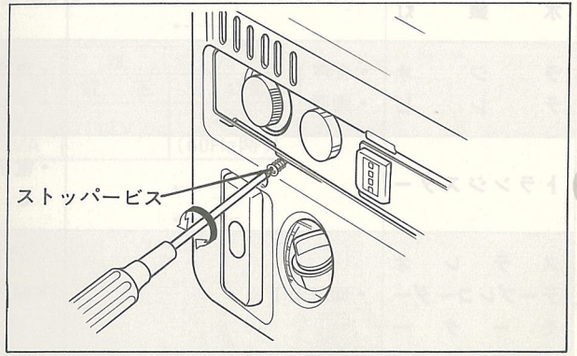


●切換えかた(60Hz→50Hz)

①周波数切換スイッチノブを“50Hz”に合せます。
②エンジンをかけて，スロットルノブをまわし周波計を“60Hz”に合せます。電気器具は接続しないでください。(負荷による周波数変動を見込んでいます)
③フロントカバーの穴にドライバーを差しこみ、ストッパービスをプレートに当るまで締め込みます。
④使用する際は、スロットルをまわし周波計を“50Hz”に合せて使用します。

●50Hz→60Hzもどしかた

①周波数切換スイッチノブを“60Hz”に合せてください。
②スロットルノブをまわし，周波計を“60Hz”に合せストッパービスを４回もどしてください。



●正しい周波数の切換えはできましたか

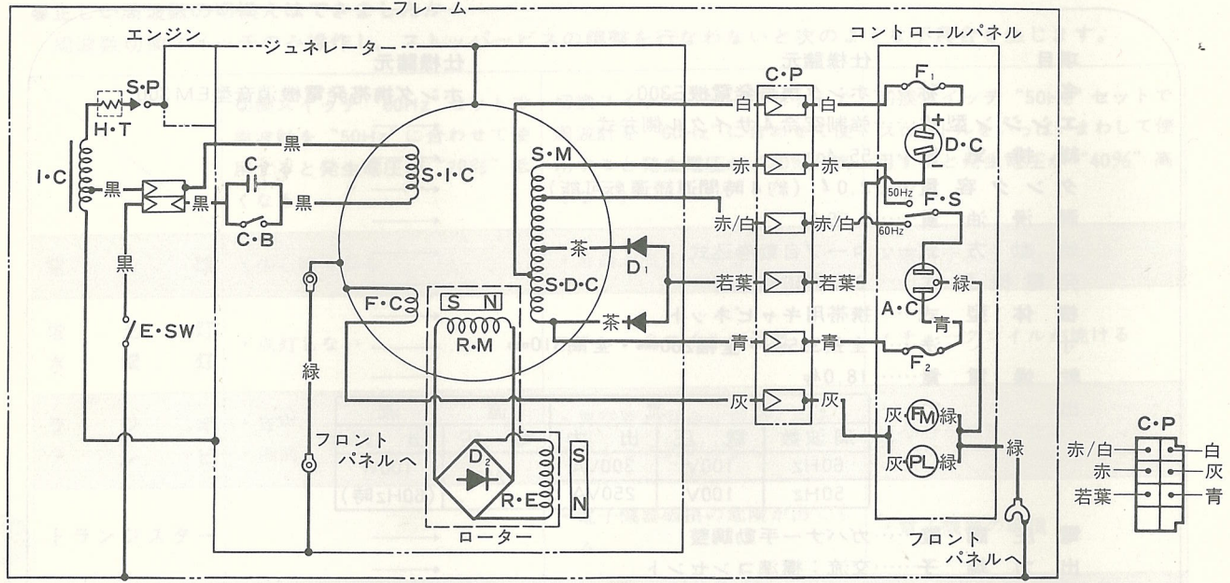
周波数切換スイッチのみ操作し，ストッパービスの調整を行なわないと次のような不具合を生じます。

	切換スイッチ“60Hz”セットで周波計を“50Hz”に合わせて使用すると発生電圧が“20%”低くなる。	切換スイッチ“50Hz”セットで周波計を“60Hz”に合わせて使用すると発生電圧が“20%”高くなる。	切換スイッチ“50Hz”セットでスロットルをいっぱいまわして使用すると発生電圧が“40%”高くなる。
電球	・少し暗くなる	・寿命が短かくなる	・破損することもある
蛍光灯 水銀灯	・点灯しない	・チョークコイルの過熱	・チョークコイルが焼ける
ラジオ テレビ	・音声 ・画面 が歪む	・真空管の寿命が短かくなる ・テレビの画面が歪む	・寿命が短かくなる
トランジスター		・電子機器破損の危険が出てくる	・電子機器の破損
ステレオ テープレコーダー モーター	・回転が下る	・回転が上る	・回転が上る

11. 諸　元

項目	仕様諸元	仕様諸元
名称	ホンダ携帯発電機E300	ホンダ携帯発電機消音型EM300
エンジン型式	強制空冷4サイクル側弁式	←
総排気量	55.4cc	←
タンク容量	2.0ℓ（約4時間連続運転可能）	←
潤滑油量	0.29ℓ	←
始動方式	ロープ自動巻込式	←
発電機型式	2極界磁回転型	←
機体型式	携帯用キャビネット	←
寸法	全長355㎜・全幅260㎜・全高310㎜	←
乾燥重量	18.0㎏	←
出力	交流：周波数 60Hz / 50Hz，電圧 100V / 100V，出力 300VA / 250VA；直流：電圧 12V，出力 100W（60Hz時）	←
電圧調整	ガバナー手動調整	←
出力端子	交流：標準コンセント	←
	直流：ハ形コンセント	←
型式認可番号	▽96－14号	←

12.配線図



AC	ACコンセント
C	コンデンサー
CB	コンタクトブレーカー
CP	カプラー
D	ダイオード

DC	DCコンセント
ESW	エンジンスイッチ
F	ヒューズ
FC	フィールドコイル
FM	周波計

FS	周波数切換スイッチ
HT	ハイテンションターミナル
IC	イグニッションコイル
PL	パイロットランプ
RE	ローターエキサイターコイル

RM	ローターメインコイル
SDC	ステーターDCコイル
SIC	ステーターイグニッションコイル
SP	スパークプラグ